

米国に居を構え、米国のデジタル放送とインターネットTVの動向をウォッチし続けているテッド若山氏。今月のテーマは「ESPNへの挑戦」である。

テッド若山氏は、米国の調査会社ストラテジック社の調査担当副社長を経て、1987年にNSI Research社を設立。情報・通信・放送技術分野のマーケット調査とコンサルティング・サービスを提供している。さらに、マンスリーレポート「The Compass」を出版。購読希望者はcompass@nsirinc.comまで。

高いブランド力を持つESPN

ESPNはアメリカの多チャンネルサービスにおいて、最も重要なネットワークの1つである。スポーツを専門とするESPNは1979年に放送を開始しており、多チャンネル向けネットワークのパイオニアの1つである。現在、ESPNはESPN、ESPN2、ESPNU、ESPN Classic、ESPNNewsなど、複数のチャンネルを持っている。多チャンネル事業者がESPNの放送に支払うライセンス料は1加入世帯当たり月\$5以上であり、有料チャンネルを除く基本的なチャンネルとしては最も高価である。

地上波ネットワークは大きなスポーツ・イベント、それに主要な試合を放送しているが、24時間スポーツ関連の番組を放送するESPNは、スポーツ界では大きなブランド力がある。Disney/ABCは1984年にESPNの80%を買い(残り20%はHearst)、ABCのスポーツ部門のABC Sportとの統合を行っていったが、2006年にはABC Sportの名称をESPN on ABCと変えたことでも、ESPNのブランド力の強さがわかる。

ESPNに挑む地上波局

主要なスポーツの放送権は地上波とESPNが持っていることから、多チャンネルサービスにおけるほかのスポーツチャンネルはスポーツ全般ではなく、テニス、ゴルフ、釣り、レーシングなど、特定スポーツ専門のニッチで存在していた。スポーツ全般のネットワークはESPNだけであった。2000年から夏季と冬季のオリンピックの放送

権を独占しているNBCでも、2012年まではスポーツ専門チャンネルは持たず、多チャンネルサービスではMSNBC、CNBC、USA Networkなどのスポーツとは無関係のチャンネルを使ってオリンピックの中継をしていた。

だが、状況は急激に変わっている。地上波ネットワークのCBS、NBC、Foxは最近、それぞれスポーツ専門のネットワークを立ち上げ、ABCのESPNへの挑戦を始めている。CBSは、大学スポーツ専門のCollege Sport Television (CSTV)をCBS Sports Networkに変え、スポーツ全般チャンネルにした。NBCは、その親会社のComcastが持っていたオルタナティブ・スポーツのVersusを2012年にNBC Sport Networkに変え、ロンドンオリンピック中は、ほぼオリンピック専門チャンネルであった。そしてFoxは、その自動車とバイクレース専門のSpeedとFuelTVをそれぞれFox Sports 1、Fox Sports 2にリブランドしている。

スポーツコンテンツへの高まるニーズ

この背景には2つの大きな動きがある。理由の1つは、スポーツの枠が広がっていることである。ESPNは3大スポーツの野球、フットボール、バスケットで勢力を伸ばしてきた。しかし、アイス・ホッケー、サッカーなどのファンが増えており、3大スポーツに頼らずに一般的なスポーツチャンネルの提供が可能になっている。NBC Sportsの大きな契約の1つは英国のプレミア・サッカーであり、ロンドンオリンピックの時と同様にインターネットも使って全試合の中継を行っている。

もう1つは、多チャンネルのコンテンツとしてスポーツの価値がこれまで以上に増していることである。NetflixなどのOTTビデオはオリジナルドラマを制作し始めており、ドラマはテレビ放送だけのものではなくなっている。CNNなどのニュースネットワークもインターネットで提供される情報に押され、視聴が減っている。スポーツの権利はテレビ放送が主体であり、OTTでリプレースすることはできていない。しかし、GoogleがNational Football Leagueとの交渉をしていると報じられており、ESPNへの挑戦はOTTからも来るかも知れない。

ESPNへの挑戦